

## 最終的に審査の対象となった防災アプリの概要(資料1のアプリを除く)

アプリ名称	避難誘導対応デジタルサイネージアプリ	防災アプリケーション	オクレンジャー
応募者名	株式会社プロフェッショナル・ネットワークス	株式会社ネオ・ジーアイエス	株式会社パスカル
概要	平時は電子広告だが、緊急地震速報が発令されると、自動的に大音量アラートと共に最寄りの避難場所までの経路情報を提供する。固定端末での利用を想定しているアプリ。	国や地方公共団体が保有するさまざまな災害関連地理空間情報(避難所や液化化危険度情報、土砂災害危険区域等多数)を地図上に重ね合わせて表示する Web アプリ。	家族や友達など小規模な団体向けのプライベート SNS と連動したスマホアプリ。平時は SNS として利用でき、災害時には、SNS でグループ内での情報共有ができるとともに、現在地と近隣の避難場所と距離を表示。
イメージ	<p>平時は電子広告</p> <p>緊急地震速報</p> <p>避難場所までの経路を表示</p> <p>緊急地震速報 (警報)</p> <p>和歌山県で地震 北緯 南部で強い</p> <p>アラート表示</p>	<p>さまざまな災害関連地理空間情報を重ね合わせ</p> <p>PC 画面</p> <p>スマホ画面</p>	<p>現在地と最寄りの避難場所を表示</p> <p>SNSでグループ内での情報共有(平時から利用可能)</p>
アプリ名称	ShareReport	海南省防災マップ	防災 AR アプリ「みたチョ」
応募者名	ShareReport チーム	株式会社アイ・エヌ・ケー	一般社団法人全国防災共助協会
概要	端末から避難所の状況(物資、医療、電力、通信状況等)を登録することができ、その情報を地図上で共有することができるアプリ。主に地方公共団体等の避難所の管理者の利用を想定。	平時から使えるスマホ用防災アプリ。地方公共団体提供の防災マニュアルの閲覧ができ、加えて自分用の緊急行動メモを記載しておくことができる。更に、災害種別毎の避難場所の地図上への表示が可能。	AR 技術を多く活用したスマホアプリ。平時には画像認識技術を用いて通常時から、防災に対する意識啓発と備蓄を促すための様々なサービスを提供。災害時には、現在地から近隣の避難所等までを AR で誘導する(距離、方向、施設名が分かるようになっている)。
イメージ	<p>物資等の避難所の状況を登録</p> <p>その情報を地図上で共有</p>	<p>防災マニュアルの閲覧</p> <p>災害種別毎の避難場所を地図上に表示</p> <p>自分用緊急行動メモを記載可能</p>	<p>AR 技術で避難所まで誘導</p> <p>平時から AR を利用したさまざまなサービスを提供</p>
アプリ名称	LifeLine 防災システム		
応募者名	LifeLine 防災システム プロジェクトチーム		
概要	近隣の避難場所への経路案内に加え、災害状況などを位置情報と共に投稿し、複数者で地図上で情報共有ができるスマホアプリ。安否確認システムも実装されている。		
イメージ	<p>避難経路の表示</p> <p>災害状況の投稿と共有</p>		

※ 応募順に記載してあります